政策評価制度の再構築に係る背景、基本的考え方及び主な改善内容

１　背景

（１）第１次実施計画（平成２４～２６年度）の終了に伴い、現行制度として初めての政策評価（中間評価）を、平成２７～２８年度に実施。

（２）新基本計画審議会（以下、審議会）答申

・市の取組みの成果・効果及び方向性については概ね首肯できる。

・そもそもの制度設計に課題があり、審議の中で提示された論点を参考に、制度の改善に繋げていくことを希望する。

２　再構築の基本的考え方と主な改善内容

平成２９年度に見直しを行い、審議会において市の原案を審議した結果、見直しの方向性や制度設計の骨格について妥当性を認める旨の答申を平成３０年３月に得た。

（１）再構築の基本的考え方

評価結果を行政活動の改善につなげるため、計画事業、客観指標及び生活実感・行動指標との関連性を高め、分析・考察を強化する。

（２）主な改善内容

ア　指標の関連性の向上

（ア）客観指標と計画事業との関連性を向上（客観指標の見直し）

（イ）生活実感指標と客観指標・計画事業との関連性を向上（市民アンケートに実感の理由を聞く設問・選択肢を追加）

［例］〇〇〇と感じますか？

→「そう思う」　→ **「どのようなところでそう感じますか？またその理由を選んでください」**

→「そう思わない」→ **「どのようなところで不十分と感じますか？またその理由を選んでください」**

イ　評価方法・プロセスの整理

（ア）機械的な点数化・平均化による５段階評価から、文章による分析・考察に変更

［現行制度］・指標1　〇　（3点）
・指標2　△　（1点）
・指標3　×（－1点）
→ 平均点　1点　→　評価「D」（A～Eの5段階）

→［見直し後］　それぞれの指標に影響を与える外部要因を含め、分析・考察を行う

（イ）指標の性質や関係性を踏まえ、評価プロセスを３段階に整理

［現行制度］・指標1（客観指標）
・指標2（生活実感指標）
・指標3（行動指標）
→ 性質や関係性の異なる指標をまとめて点数化・平均化

→［見直し後］　①行政活動実績評価　→　②アンケートの分析・考察　→　③政策評価

（事業と客観指標を活用）　（生活実感・行動指標を活用）　（①②を踏まえた総合的な分析・考察）